

第 56 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 27 年 12 月 21 日(月) 午前 10 : 30 ~ 12 : 00
2. 開催場所 河鹿荘 会議室 (大阪府箕面市箕面 1 丁目 6-6)
3. 委員の出席 委員総数 7 名
- 出席委員 7 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、牧野直子、稲井信也、桑田政美
中村保、高谷和彦、須貝昭子
- 放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)
大平麻由美 (編成課長)
小川 亮 (編成課員)
野間 耕平 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 「みのおママの学校」
「幸運 (しあわせ) の道しるべ」
- 2) 審議
- 3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

<「みのおママの学校」について>

子育てママを総合的にサポートする、日本でたったひとつのユニークな学校「みのおママの学校」の校長で助産師の谷口陽子さん、梁 梨香さんが中心になり、子育てママのお悩みにやさしく寄り添いながら、助産師として、また、ひとりの先輩ママとして、子育てでの大切な知識をラジオを通して分かりやすく伝えています。内容は、子育てママのお悩み相談、みのおママの学校のイベントなどの告知に加え、数カ月に1回、医師をゲストに迎えて、専門的なお話を伺います。

相談内容は、「みのおママの学校」内で集めるほか、番組内でも募集します。放送したお悩み相談（Q&A）の内容は、タッキーのブログでもご紹介し、忙しいママさんをサポートします。

「みのおママの学校」の取り組みを、タッキー816で取材したことがきっかけで、以前から温めていた子育てママさんをターゲットにした番組を同学校に協力していただき、作れないかと考えていました。その矢先に、学校側から、ラジオを通して情報発信したいと企画を持ち込んでくださいました。熱い思いをもって活動されている現役ママさんで、さらに助産師としての専門知識も持たれているお二人を中心に、パーソナリティも加えて企画を重ね、コーナーをスタートさせました。回を重ねながら知名度を上げ、イベント開催なども視野に入れて取り組んでいきます。

<「幸運(しあわせ)の道しるべ」について>

箕面市在住の、フリーライターでコーディネーターのなかむらのり子が、公私で出会う素敵なみなさんをゲストに迎えて、そのかたが人生の転機・ターニングポイントを迎えたときに、何を感じ、どう選択していったのかを伺う対談番組です。影響を受けた音楽も紹介し、最後には「道しるべメッセージ」を聴取者へのメッセージとして発信していただきます。番組の内容は、タッキーブログでも紹介し、放送後、インターネットでも聴いていただけます。

(2) 審 議

委員長：ただいま番組の説明がありました。それでは番組審議をお願いします。

<「みのおママの学校」について>

委員A：なかなかユニークな取り組みだなと思いながら聞かせていただきました。内容についても子育て中に悩むことが取り上げられていて、そのことだけでなく、その周辺の事柄も取り上げられていて非常にいいなと思いました。今までの番組と違い、この番組は対象が非常に絞られていて、その対象のかたのニーズをどれだけ抽出できるかが大事だと考えます。いい番組でも聞いていただけなかったら存在しないのと同じなので、番組の露出を高めながら、どう必要としているかたに聞いてもらえるかがキーになるでしょう。例えば検診のときに「この番組を知っていますか？」というPR。それから子育て支援センターなどで「こういう番組があるよ」とアピールするとか。子育て中の世代は、子育ての情報は自分でスマホからとったりしているようですし、友達から友達へこんな番組があるよと伝えるのもスマホやSNSからのようなので、番組の露出の高めかたとしてはSNSを駆使するのがこの番組の対象へはいいでしょうね。

今までの番組は、対象がはっきりしないものが多かったですが、今回ははっきりターゲットを絞ったPRが必要です。

委員B：いい番組ですね。パーソナリティが二人を突っみながら溶け込んでいるみたいで良かったです。気になったのは電話番号の紹介が早口すぎて聞き取れませんでした。また、番組のPRの仕方に気を使った方がいいように感じました。産科の待合の時間は結構暇でボーっとしているようなので、そういう場で広められるのではないのでしょうか。

委員C：ターゲットがはっきりしているので、子育て中のお母さんの声をたくさん聞くのが大事だと思います。

委員E：着目点も素晴らしいし、リスナーも絞れている。当然このターゲット層に知ってもらうことが重要です。Q&Aをブログで紹介するのも

いいシステムだと思います。

委員F：番組内容はいいですし、子育てママさんにとっては安心できる内容にもなっていますね。話も面白いですし、ゲストのお二人の声は聞きやすかったです。パーソナリティのかたが早口で何を言っているのか聞き取れなかった箇所がありました。気になったことは、一つは放送の時間帯が子育てママに本当にあっているのかということ。適正な時間なのかというマーケティングも必要でしょう。もう一つはこうやって番組を聞くとすごくいいのに、タッキーの番組表を見てもそれが反映されていないように感じます。「子育てママ向けにこんな番組が始まりました」とか、アピールの仕方があるかと。番組専用のフェイスブックページを立ち上げたら、もっといろいろなやり取りができて広がっていくんじゃないでしょうか。

委員長：今の世相に合ったいい番組で、やり取りがあるのがいいですね。番組表で少し枠を取って紹介した方がいい。的を絞った番組はそうした方がいいです。

委員A：タッキーのHP内で強調してPRしたり、タッキーのことはどうでもいいという人でも分かるようにフェイスブックページや他の方法でPRも。産院の待合室で見ってもらうように、ポスターを作成して、目を引くようなキャッチコピーを入れてタッキー816で聞けますよと書いておいたら、タッキーが子育て情報を得られる媒体だと知ってもらえる。

委員C：若いお母さんたちですから、FBを立ち上げてもらって、タッキーのHPだったりブログにリンクしていけば可能性は広がりそうですよ。

委員長：パーソナリティのトークのテンポが早いと感じました。タタタッと話されるので聞き取れない箇所がありました。

<「幸運(しあわせ)の道しるべ」について>

委員A：すごく深い内容です。担当者のかたは、聞き出す力が長けていて、ゲストがターニングポイントを迎えたときの話は、相手をよく知ってないといけないと感じ、じっくり聴きました。耳をそばだてて聴きたくなる、まさにそんな番組でした。

委員B：個人的に、非常に気に入りました。面白かったです。「街づくりドリームマップ」について、これは真似して自分でもやってみたい。「忘れないでください」という歌も、ほっこりして良かったです。強いて言えば、まちづくりの「手法」よりも「思い」を引き出してもらえれば良かったと思います。関心のある人・ない人が分かれる番組なので、次回のゲストがどんな人か分かれば、私たちも情報を発信できます。私の仲間の、まちづくりに関わっている人には、とても興味深い内容だと思うので、私も発信のお手伝いができると思います。

委員C：番組では、景観の条例についてのお話などの中で、ゲストの人となりや上手に引き出しながら、どういう経緯でこういう活動に至ったか、自然にその人が思い浮かぶような構成になっており、分かりやすく興味が持てました。

委員D：人によって関心の有無があるかと思います。私自身は、「しあわせの道しるべ」というタイトルを聞いた時点で、「放っといてくれ！自分のターニングポイントなんか、自分で決めるわい！」と思ってしまい、関心を持って聴くことができませんでした。

委員E：けっこう重い内容の番組でした。リスナーの心構えや、歩いてきた人生によって、受け止め方が異なるでしょう。人はそれぞれ自分で勇気を持って、好きなように一歩踏み出したらいいんじゃないでしょうか？その人は上手くいっても、他の人がそのやり方を真似して上手くいくとは限らないだろうし、いろんな捉え方ができると思いました。

委員F：タイトルを聴いて、まず「宗教番組かな？」と思いました。実際の印象は、「人生の楽園」のラジオ版のような感じでした。タイトルは、「人

生のターニングポイント」といった感じに、ストレートに言った方が良かったと思います。そのときのゲストによって、番組自体の評価も変わってくるのではないのでしょうか。聞き手の状況で、どこに注目するか。今回のゲストで言えば、景観アドバイザーという職種や、まちづくりに興味を持って共感するか、その人のターニングポイントにおける判断に共感するか、聞き手の意識でものすごく変わるところが気になりました。また、間の音楽はターニングポイントに関連した音楽1曲で良く、他にもっと聞かせてほしい話がいっぱいありました。ゲストについては、もっと箕面にこだわって、市内在住の夫婦と一緒に招くとか、ターニングポイントについての語りをするなら、あってもいいかと思いました。

委員長：意見が半分に分かれました。これは良いことだと思います。みなさんの意見を聞く中で、どちらもその通りだと納得しました。タイトルに引っ張られて、話の内容がそれに固執したところもあるように感じられたので、タイトルをもう少し検討してもいいのではないかと思います。

事務局：担当者から企画が持ち込まれたとき、30分間の構成、流れ、音楽はゲストのこだわりの二曲、タイトルなど、相談を重ねて決めました。もちろん、ゲストによって構成は変えられます。担当者のネットワークには第一線で活躍している人がたくさんおり、「日本アンガーマネジメント協会」のかた、元NHKエグゼクティブプロデューサーの村上信夫さんなど、第一線で活躍されているかたで、いずれもお話が上手なかたを招いていますので、それらのかたのお話に引き込まれるような構成にしたいと考えています。

委員F：番組の構成上、職業の面白さと自分史というのを上手くバランスとって話さないと、職業の面白さだけで話が進んでしまうこともあり、ちょっと違うんじゃないの？と思う可能性もあります。そのバランスを上手く取れば、もっと面白くなるでしょう。

委員A：あんまりゲストの仕事の中身に入り込んでしまうと、その人から何を

聞き出したいかということがぼやけてしまうし、評価が登場人物によって全然変わってしまうので、その辺りをきちんと定めておかないと、番組の目的が分からなくなってしまいます。

委員E：ゲストは素晴らしいが、その人の顔が見えません。その道の人なら知っているでしょうが、その辺りが聴きづらい。もっと顔が見えた方がいいと感じます。若い人が聴けるようなゲストも含まれれば、もっとリスナーが増えていくのではないのでしょうか。

委員B：この番組は、現役の人が対象だと感じました。私自身は、まちづくりに興味があるので非常に面白い内容だと思いましたが、ターニングポイントについての内容は記憶に残っていません。年齢に関係なく、活動している人はそれなりに悩みがあるので、一流のゲストたちから参考になる話を聞きたい、ターゲットはそういう人たちだと思います。そのために広報をどうするかが大きな要素で、活動家、現役にどう聞かせるか、時間帯も含めてきちっと整理した方が良いのではないのでしょうか。

事務局：放送した内容をインターネットで聴くことができるので、それも含めてPRできるように考えていきます。

委員F：それならそれで、ゲストなり構成なり考えていかないと。時間帯は確かに日曜日の昼からなので、現役の人でも聴ける時間にはなっています。そうするとタイトルとか、これはちょっと合わないかなと思いますし。

委員B：現役の人が、土日の昼間に聞くということは、基本的にはないと思います。聴くなら夜だったりすると思うのですが、家でPC作業をしながら「ながら」で聴く、そういうのがいいんじゃないかと思います。こういう層に聞かせるんだというのが分かってくれば、いろいろ調査のしようもあると思います。

委員F：編成全体を一度整理して「聴かせるもの」と「ながらでいいや」というものと、見直してはいかがでしょうか。いろんな層を想定しながら。

委員A：番組内容はメールマガジンに書いていただければ。メールマガジンは番組案内の目次みたいなものだから、その中からゲストをチェックして、番組によっては知人にも伝えたりします。それがないと、本当に情報がない。いちいちホームページを見て、番組表クリックして…なんてことはしません。

委員長：開局 20 周年を迎えて、最近富みに企画がぐっと良くなったなど、肌で感じています。上手にターゲットを絞り込んだ中で、ポイントを上手に入れていって。ただ、時間帯、これは難しいかなと思います。何かの折りに、がらっと整理して、組み替えてはどうでしょうか。せっかく企画も充実し、ターゲットも絞り込んだのに、時間帯が合わなかったというのでは惜しいので。出演者の顔ぶれもだいぶ変わり、レベルも上がってきましたし、市民とのコミュニケーションもできてきて、その結果だと思いました。

いろいろなご意見、ありがとうございます。これで番組審議会を閉会します。

7. 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

なし

8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://company.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 27 年 12 月 21 日

箕面FMまちそだて株式会社 番組審議会